

# 地区だより—北から南から—

## 平成二十六年年度の活動概要

北海道稲門教育会会長  
北海道札幌西高等学校長

前川 洋



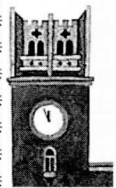
創立三十六年目を迎えた北海道稲門教育会の会員は、現在、一五七人を数え、そのうちの八十五名の現任教員が全道各地の高等学校及び北海道教育委員会等で活躍しています。陸続きであっても、札幌市から四〇〇キロ近く離れた地域もあり、札幌市に出張すると、日帰りができず、前・後泊が付く地域もあります。また、人事異動では、多くのケースが引越しを伴うため、いわゆる「引越し手当」の予算総額は億単位となっており、本道の広域性を改めて感じさせます。

北海道稲門教育会では、年二回の集まりを札幌市で開催しています。一つは、冬期休業中の一月上旬に、全道の高等学校の教員等が研修を行う北海道高等学校教育研究大会に合わせて開催する「総会・教育懇談会」です。例年、大

学から三名の方が参加し、大学の現況等を説明していただいておりますが、今年度はかなわず、大変残念でした。OB・現役会員・教育関係者を合わせて二十七名の参加となりました。この時に合わせて、「早稲田学報」の北海道教職版の意味を込めて平成二年に創刊された「北海道稲門教育会会報」の最新号が配布されます。これにより、全道各地で活躍している会員諸兄の近況を知ることができます。

もう一つは、夏期休業中の七月下旬に、「夏期研修会」を開催しています。毎回、早稲田大学関係者や本道実業界の方々による講演を行い研修を深めています。研修会は、これまで主に管理職と行政関係者で開催していましたが、今年度からは、教育関係者や一般教員まで広く参加を募ることにしました。本年は、二十名の参加を得て、本会の会員である講師荒到夢形（荒井 到）氏による講演が行われました。「大隈重信と福沢諭吉」と題する講演を承り、両氏の交友関係など、初めて知ることがたくさんありました。また、当日は、お忙しい中、早稲田大学から尾島浩幸氏の参加もいただきました。

さて、本会の会員数は、年々減少し、憂慮すべき状況で





す。早稲田を卒業して教員となる若者がほとんどいません。そもそも本道出身の早稲田の学生が減少傾向にあります。本会をはじめ本道の行く末が心配です。教育に関わる私たちの力で、まずは、都の西北を目指す生徒を増やすよう、道外でチャレンジしたいと思う進取の精神を持つ生徒を育てなければと考えています。

今後とも、北海道稲門教育会は早稲田大学稲門教育会の北極星として輝き続ける所存です。